

## 令和3年 新春の所感

令和3年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が国内の社会経済活動に深刻な影響を及ぼした1年であり、未だに収束の兆しが見えてこない状況にあります。

本県においても、一時期、落ち着きが見られたものの、11月以降、大規模なクラスターが発生し新規感染者が増加しており、県内のどこで感染が拡大してもおかしくない状況が続いております。

このような中、当協会は、年度前半に予定していました研修会・講習会やビルクリーニング技能競技会の開催を中止し、通常総会についても開催せず、決議の省略・報告の省略により会員の皆様の承認を頂きました。

なお、後半の事業につきましては、三密を避けがたい労働安全衛生大会・年末の懇談会、新年会は中止しましたが、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じたうえで奉仕活動は実施し、研修会・講習会につきましては、除菌清掃の方法等についての内容を追加して開催いたしました。

また、本年は、東日本大震災とそれに伴う東京電力福島原子力発電所の事故から10年となる節目の年ではありますが、原子力発電所立地地域における復旧・復興は道半ばであり、住み慣れた地域を離れ県内外で避難生活を送られている方々が3万人を超えております。これらの方々が、少しでも早く平穏な生活を取り戻すことが出来るよう強く願うものであります。

さて、当協会は、公益社団法人に移行して6年が経過いたしました。移行以来、様々な公益活動に取り組んでおり、県など関係団体の提案や助言を頂きながら、公共の利益の維持・向上を第一とし、ビルメンテナンス業務の社会的な責務を果たすため、各種の研修会や講習会の開催、奉仕活動など様々な活動を行ってまいりました。

本年も、公益社団法人全国ビルメンテナンス協会と連携しながら、三密を回避し、マスクの着用、手指の消毒などの基本的な感染対策を徹底した上で、清掃作業従事者研修会、研修指導者講習会や昨年度から始めた貯水槽清掃作業従事者研修など、協会としてコロナ禍の中で社会の安定維持に必要な不可欠なサービスと位置付けられているビルメンテナンス業務の品質の確保のために人材育成事業に取り組んで、より高い品質で品格のある業界を目指してまいります。

また、本年も、県内の支援学校の技術講習会に協会講師がビルクリーニングの指導講師として出向き技術指導を積極的に行ってまいります。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束を願い、皆様にとりまして、この1年が良い年になりますよう祈念いたしまして、新年のあいさつといたします。

令和3年1月1日

公益社団法人福島県ビルメンテナンス協会  
会長 佐藤 日出一